

鹿児島大学病院

研修医 玉井 元規 2016年2月

鹿児島大学医学部附属病院 初期研修医2年目の玉井 元規と申します。

今回、2016年2月の一ヶ月間、出水総合医療センターをはじめとする出水地域の医療施設にて地域研修をさせていただきました。私は、鹿児島県鹿児島市出身ということもあり、出水のイメージは「鶴の街」、「熊本に近い」、「鹿児島市から遠い」といった感じではありましたが、初日、車で鹿児島市から出水に向かった時は、高速道路が発達してきたこともあり、「意外と近い」という印象に変わりました。また新幹線で鹿児島市まで25分弱と自分の日頃の通勤時間より短いことに衝撃を受けました。鹿児島県も都会になったなあとしみじみ思います。

そんな出水での研修は、野田診療所、高尾野診療所、出水総合医療センターを中心に、出水保健センターや上場診療所、第2病院等の施設にもお邪魔させていただきました。

内村先生が一人で診療されている野田診療所は、元々病院であったこともあり、院内検査室からCTまでそろっており、内視鏡検査も含め、一通りの検査が出来ることに驚きました。以前は入院病床もあったそうですが、今は外来を中心に訪問診療もされていて、院内病床はなくなっても出水地域に入院ベッドが散らばっている感覚に陥るほど、地域医療に密着し、医療を提供している印象を受けました。一方、高尾野診療所はスケジュールの都合上、あまり長く研修することは出来なかったのですが、外科出身の西元寺先生と内科の長谷川先生の二人体制の有床診療所であり、夜間の体制を含め二人の先生の連携には、野田診療所とはまた違った印象を受けました。どちらの診療所に対してもいえることは、地域のかかりつけ医として長年医療を提供されていることであり、診察技術等の前段階である、「患者さんへのコミュニケーション」から大変勉強になりました。

総合医療センターの方では、循環器内科を中心に多職種連携研修と、大学病院等と同じ多診療科の病院でありながら、医師同士・医療関係者同士だけでなく、患者さんを含めた人と人との距離感が近いことに驚きました。総合医療センターの循環器内科は阿久根の広域医療センターとの棲み分けがされており、救急循環器よりも慢性循環器に重きを置いている印象でした。どちらが良い悪いとかではなく、どちらか一方でもかけてしまうと地域医療のバランスは崩れてしまうため、それぞれの役割を全うすることが大切だと感じました。また、夜間一次救急含め、各種勉強会では二つの医療センターのみならず開業医の先生方との関わり合いもあり、身分関係なく、地域全体で地域医療を支えていることが一番印象に残りました。

最後に、1ヶ月間、各医療機関におかれましては数日単位と大変短い期間ではありましたが、まだまだ未熟である私に対し、熱く熱心にご指導頂き、また、地域の方々におかれましても研修にご理解とご協力頂き、心から感謝のお礼を申し上げます。ありがとうございました。